東日本大震災対策委員会　エネルギー政策の選択肢分科会（第2回）議事要旨

1．日時：　平成23年5月11日（水）　10：00～12：30

2．会場：　日本学術会議　5－A（1）会議室

3．出席者：

エネルギー政策の選択肢分科会（敬称省略）：

今田髙俊、馬越佑吉、海部宣男、北澤宏一、笠木伸英、西尾章治朗、矢川元基、松村敏弘、鷲谷いづみ

事務局：　石原、瀬高、中島他

4．資料：

資料1　前回議事要旨（案）

資料2　エネルギー政策の選択肢第1回委員会資料（2011．5．11　北澤宏一）

参考1　委員名簿

5．議事：

1）前回議事要旨（案）の確認

原案のとおり承認された。

2）「エネルギー政策の選択肢」分科会の基本的方針について

北澤委員長から、副委員長として今田委員を、幹事として馬越委員、矢川委員を指名され、了承された。

〇被災地域の復興グランド・デザイン分科会の進捗状況も鑑みながら、6月をめどに中間報告を発表したい。

〇内外の委員会とも連携しながら進めたい。また、そのための積極的な情報発信を行っていく。

〇色々な情報を集め、委員会で見直し、調査に関するリクエストなどは事務局にて調べ、 まとめていきたい。

3）選択肢の数と設定表現について

以下のような意見が出された。また、北澤委員長より資料2に基づく説明が行われた。

〇シナリオを明確にして、4 つの選択肢を提言したい。また、平易な言葉を使い、社会生活への影響も踏まえつつ、国民にわかりやすいものとしたい。

〇選択肢を提供する相手として誰を想定するかは重要である。最終的には国民がこの中から

どう選ぶかということ。4つの選択肢を通じて、国民がエネルギーについて考え、議論することが課題ではないか。また、世界のエネルギー事情を国民に知らせることも大きな意味がある。

〇供給安定性、環境適合性、経済安定性といった観点を表現に盛り込めるかどうかが課題ではないか。

〇4 つのうちどれかを取るのではなく、2 つのシナリオの中間的なものなどもあるかも知れない。

〇どういう分野の技術がどこまでいけばこの選択肢になるのか、目標を設定することも大事なのではないか。

4）選択肢の内容の詰め方と工程について

以下のような意見が出された。

〇エビデンスベースで、不確実性や廃棄物も含めたコスト、耐用年数なども含めて検討したい。

〇選択肢を考える上で、不確実性が多い。資料としても前提や算出根拠があるものは、それを明確にしておく必要がある。

〇バイオマスや地熱発電もエレメントとして押さえた上で考えなければならない。

〇選択するための客観的なデータを、学術会議として提供するのは重要である。

〇エネルギー政策に影響を与えるものなのに、議論が狭いのではないか。対象が電気に限られている。エネルギー政策というのであれば、熱需要なども考慮する必要があるのではないか。

〇需要サイドのコントロールも供給サイドのコントロールと同じように重要。スマートコミュニティ等の概念も重要でないか。

〇再生可能エネルギーへの投資については、十分な投資余力があるということと、価値を何に置くかを問うというシンプルな説明の方が分かりやすい。

〇選択肢の中に「再生可能エネルギーのみの場合」という選択肢があってもよいのではないか。

〇限られた期間でまとめるためには、それぞれにメリットデメリットがあり、選択肢によってどのようになるか、リスクや電気代などのコストにも触れつつ提示をすることになるのではないか。

〇会議後、資料や議事録を電子データで公開し、オープンにするようにしてほしい。

以 上